

佐佐木幸綱選

ウエディングドレスの靴は15センチヒールで
 だいぶドキドキしてる (富山市) 松田 梨子
 「本も高くなりましたね」と思えども共感し
 あう本好きおらず (福岡市) 犬山 裕之
 しじみ蝶また舞いもどる丈ひくき娘の墓標は
 菜の花の涯 (市川市) 山崎 蓉子
 鈍行で次の駅への切符買うタッチパネルを七
 回押して (蕪崎市) 望月 美良
 群れ咲けるハクサンイチゲ思いつつ登山装備
 を点検する夜 (長崎県) 稲垣 妙子
 ウォーキング散歩ジョギング命懸け熊がよく
 でるわれの町では (金沢市) 竹内 一二
 荒っぽい降水帯を連れてきて近頃の梅雨ほど
 く暴れる (岐阜市) 金子 秀重
 畑にはソーラーパネル立ち並び田には老人ホ
 ーム建つ里 (前橋市) 荻原 葉月
 また一軒畑ある家の人が去り東となりの空せ
 まくなる (水俣市) 岩崎 真哉
 若き日の母の笑顔の写真から写しているのは
 父だとわかる (中津市) 荒谷 みほ

【評】第一首、松田梨子さんが自身の結婚式をうたった一首。口語歌らしい口語歌として注目。第二首、曲がり角に來た「本の時代」。これからどう展開して行くのか。第三首、蝶の動きにスポットライトを当てて印象的。

高野公彦選

麻酔覚め焦点合はぬあなたの目 お帰りなさ
 い、地球の朝ですよ (ふじみ野市) 中松 伴子
 短歌を詠み大谷を颯て散歩する八十四歳今が
 しあわせ (東京都) 秋岡 昭
 ☆つまづきもよろめきさへもカウントし歩数計
 二万京都を歩く (長野県) 千葉 俊彦
 東屋に鹿集まりて雨宿りしており台風七号の
 朝 (奈良市) 山添 聖子
 梅雨・台風七、八号に洗はれて青すがすがし天
 王山は (枚方市) 鍵山 奈美江
 ☆付度のパスと恭順のアシストで無人のゴール
 を揺らすトランプ (札幌市) 田巻 成男
 新じゃがと新玉ねぎを子に送り残った小粒を
 しずしずと食む (取手市) 佐藤 孝子
 中学で不平を言わず食べてるか祖父の苦心の
 日々の弁当 (亀岡市) 俣野 右内
 今はもう旧姓よりも長く生き旧姓目にし懐か
 しき湧く (東京都) 鈴木 真理子
 刑罰で愛国心を強要すそんな日の丸滅びてし
 まえ (朝霞市) 岩部 博道

【評】1 首目、下句の台詞がユーモラスで楽しい。2 首目、高齢の今が人生至福の時、と喜ぶ。3 首目、自分の足で歩き続けて京都の町を楽しむ作者。4 首目、いかにも奈良らしい光景。5 首目、台風のもと、奈良より北方の爽やかな自然の大景。